優 秀 賞

「　モノ＝ココロ　」

経営学科　4 年　おかや じゅうろうさえもん（P.N.）

持って生まれた性分か？モノを最後まで使い切らないと気が済まない。例えばボールペン、書く文字がかすれてきても完全にインクが出なくなるまで使い切る。チューブ入りの歯磨き、残量がわずかになればあちらこちらを押さえつけ、最後には下部から丸めて絞り出す。身近なモノでこうだから、他に例をあげればきりがない。完全に使い終わったときの爽快感・満足感は何ともいえない。

だが家人に言わせればそのような行為はけち臭く、社会全体にお金がうまく回らないし、今や断捨離の時代だという。

振り返れば、戦後の経済成長とともに過ごしてきた私たち世代は成長とは名ばかりで、今のようにモノが豊富で手軽に手に入るような状況ではなかった。そのため家庭や学校でモノを分け合ったり、一つのものを共同で使ったりしたものだ。そうした経験がモノを大切に扱い、使い切ることを身に付けたのかもしれない。その後大量生産、大量消費の時代となり消費が美徳となる。そしてバブルが崩壊、デフレの時代に突入し、今やコロナ禍の影響で経済の先行きは見えない。その時代、時代の流れに沿った生活をする必要があるとの考え方もある。確かに経済は需要と供給のバランスの上に成り立っていることは理解できる。それでもモノを大切にし、使い切りたい。なぜならモノとココロは繋がっていると思うからだ。モノを大切にすることそして使い切ること、それは自分のココロや相手のココロを大事に思い愛しむことに通じているからだ。

本学を卒業するまで日数が 100 日を切った。いや、まだ 100 日もある。この期間に学生にしかできないこと、やり残したことを出し尽くしたい。できれば腹の周りのぜい肉も出し尽くすことができれば良いのだが。